

平成 22 年度 環境教育リーダー研修基礎講座北海道ブロック開催要項

1 趣旨

環境省、各地方環境事務所と文部科学省、都道府県教育委員会との連携・協力の下、環境教育・環境学習を推進する人材として、今後重要な役割が期待される学校教員及び地域の活動実践リーダー等を対象に、基本的知識の習得と体験学習を重視した研修を行い、指導者としての能力を養成するとともに、参加者相互の交流によりパートナーシップ構築の礎を築き、もって、学校の児童生徒や地域の人々に対する環境教育・環境学習の推進に資する。

2 主催・実施主体・後援・協力

- (1) 主 催 環境省、文部科学省
- (2) 実施主体 環境省北海道地方環境事務所
- (3) 後 援 厚岸町教育委員会
- (4) 協 力 北海道教育委員会、北海道

3 開催月日・開催場所

- (1) 開催月日 平成 22 年 8 月 9 日（月）～11 日（水）2 泊 3 日
- (2) 開催場所 ネイパル厚岸（北海道立厚岸少年自然の家）

所在地：北海道厚岸郡厚岸町愛冠 6 番地
電 話：0153－52－1151

4 募集人員・参加対象者・募集方法

- (1) 募集人員
40 名
- (2) 参加対象者
 - ① 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校の校長及び教員のうち、これから環境教育・環境学習に取り組もうと考えている者で、国立学校については所属する国立大学法人学長、公立学校については北海道・各自治体教育委員会、私立学校については北海道知事が推薦する者
 - ② 地域で環境保全活動等に取り組んでいる者、またはこれから環境教育・環境学習に取り組もうと考えている者など比較的環境教育・環境学習に関する経験の浅い者
- (3) 募集方法
 - 上記（2）の①に該当する者については、北海道教育委員会が参加者の募集及び取りまとめを行う。
 - 上記（2）の②に該当する者については、環境省北海道地方環境事務所が参加者の募集及び取りまとめを行う。

5 参加者の決定

応募者の構成を勘案し、環境省北海道地方環境事務所において参加者を決定し、別途通知する。

6 経費

本講座に係る経費は主催者負担とし、参加者に係る旅費、宿泊代等は参加者負担とする。参加費は一般 5,500 円、学生（大学生・専門学校生）4,100 円とする。

（参加費内訳）

	宿 泊 代	食 事 代	保 険 料	飲食代等	合 計
一 般	1,000 円（1 泊） ×2 泊＝2,000 円	(朝)500 円×2 食 ＝1,000 円 (昼)500 円×1 食 ＝500 円	200 円	200 円	5,500 円
学 生	300 円（1 泊） ×2 泊＝600 円	(夕)900 円(1 日目) ＋700 円(2 日目) ＝1,600 円 ※1	※2		4,100 円

※1 1 日目の夕食については、かまど等を使用した野外炊飯を予定している。

※2 保険（国内旅行傷害保険）の補償内容については以下のとおりである。

・死亡・後遺障害	1,950 千円
・入院日額	2,500 円
・通院日額	1,500 円
・賠償責任	1,000 千円

7 研修内容

(1) 【講義】「コミュニケーションと体験型学習」

講師：山本 幹彦 氏（NPO 法人当別エコロジカルコミュニティー
（以下、「TEC」）理事長）

(2) 【基調講演】「霧多布湿原の環境教育とまちづくり」

講師：三膳 時子 氏（認定 NPO 法人霧多布湿原トラスト理事長）

(3) 【講義】「標茶高等学校における環境教育の取組」（実践事例発表）

講師：遠藤 友祐 氏（北海道標茶高等学校教諭）

(4) 【講義】「環境教育体験講習」（分科会）

I 「水辺から見る環境教育」（カヌーで川下り）

講師：長岡 滋雄 氏（霧多布湿原自然学校代表）

II 「湿原と環境教育」（湿原の自然と環境教育）

講師：河原 淳 氏（霧多布湿原センター館長）

- (5) 【講義】「体験学習に基づいた環境教育のポイント」
講師：山本 幹彦 氏（NPO 法人 TEC 理事長）
- (6) 【実習】「環境教育・環境学習プログラム作成」
講師：藤田 郁男 氏（環境学習フォーラム北海道代表）
講師：山本 幹彦 氏（NPO 法人 TEC 理事長）
- (7) 【実習】「環境教育・環境学習プログラム発表」
講師：藤田 郁男 氏（環境学習フォーラム北海道代表）
講師：山本 幹彦 氏（NPO 法人 TEC 理事長）
- (8) 【講義】「3 日間のふりかえりとまとめ」
講師：山本 幹彦 氏（NPO 法人 TEC 理事長）

8 研修スケジュール

8 月 9 日（月）

時 間	内 容
13：00～13：30	受付
13：30～13：40	開講式・オリエンテーション
13：40～14：40	【講義】「コミュニケーションと体験型学習」 講師：山本 幹彦 氏（NPO 法人 TEC 理事長） アメリカで開発された環境教育の普及を行う傍ら、2002 年から主に「道民の森」において森林環境教育を実践する講師が、体験を通じた体験学習の基礎を説明します。
14：45～16：15	【基調講演】「霧多布湿原の環境教育とまちづくり」 講師：三膳 時子 氏（認定 NPO 法人霧多布湿原トラスト理事長） 昆布漁業の家業と子育てを両立させながら、認定 NPO 法人霧多布湿原トラスト理事長を務める講師が、設立から現在に至るまで進めてきたまちづくりと教育的なアプローチについて講演します。
16：25～17：25	【講義】「標茶高等学校における環境教育の取組」(実践事例発表) 講師：遠藤 友祐 氏（北海道標茶高等学校教諭） 標茶高等学校で取り組んできた環境活動である釧路湿原再生プロジェクトやインタープリターズキャンプ、全国高校生自然環境サミットを中心に、その取組を紹介します。
17：30～	夕食、自由時間

8月10日（火）

時 間	内 容
7 : 30～8 : 30	朝食
9 : 00～14 : 00	【講義】「環境教育体験講習」（分科会） I 「水辺から見る環境教育」（カヌーで川下り） 講師：長岡 滋雄 氏（霧多布湿原自然学校代表） 霧多布湿原センターレンジャーを経て、現在、霧多布湿原自然学校代表、道立厚岸少年自然の家スタッフとして活躍している講師が、水辺をキーワードとした環境教育の視点を、カヌーで川下りをしながら解説します。 （※ネイバル厚岸常駐の社会教育主幹がカヌーの乗り方を指導します） II 「湿原と環境教育」（湿原の自然と環境教育） 講師：河原 淳 氏（霧多布湿原センター館長） ケンボッキ島の調査、霧多布湿原いきものリストの作成、緑の回廊事業などに携わり、2006 年から霧多布湿原センターに勤務している講師が、湿原プログラムを体験しながら、同センターにおける環境教育プログラムのポイントや視点を解説します。
14 : 10～15 : 10	【講義】「体験学習に基づいた環境教育のポイント」 講師：山本 幹彦 氏（NPO 法人 TEC 理事長） 体験学習を重視した環境教育・環境学習プログラムの重要性について説明した後、環境教育・環境学習プログラム作成に当たってのポイントを説明します。
15 : 15～17 : 15	【実習】「環境教育・環境学習プログラム作成」 講師：藤田 郁男 氏（環境学習フォーラム北海道代表） 講師：山本 幹彦 氏（NPO 法人 TEC 理事長） 5 ～6 名のグループに分かれ、実際の授業プログラム案を作成します。
17 : 30～	夕食、自由時間 ※自由参加（19 : 30～ 参加者の活動発表）

8月11日（水）

時 間	内 容
7：30～8：30	朝食
9：00～11：00	【実習】「環境教育・環境学習プログラム発表」 講師：藤田 郁男 氏（環境学習フォーラム北海道代表） 講師：山本 幹彦 氏（NPO 法人 TEC 理事長） グループ毎に授業プログラム案の発表を行い、参加者からのコメントを取り入れながら修正していきます。
11：10～11：40	【講義】「3 日間のふりかえりとまとめ」 講師：山本 幹彦 氏（NPO 法人 TEC 理事長） 3 日間をふりかえり、参加者の今後の活動にどうつなげていけばよいのかを説明します。
11：40～11：50	閉講式
11：50	解散

※都合により、プログラム及び講師が変更になる場合がある。

※8月10日（火）の「環境教育体験講習」（分科会）については、野外での活動を予定している。天候事情によっては変更となる場合がある。

9 講師プロフィール

山本 幹彦 氏（NPO 法人当別エコロジカルコミュニティ理事長） 1956 年京都府生まれ。1980 年代の終わりから環境教育に関わり、Project Learning Tree や Project WILD といったアメリカで開発された環境教育教材の普及を行う。2000 年に北海道に移住し、2002 年に現 NPO 法人を設立。主に「道民の森」での森林環境教育を実践している。現職のほか、学習院女子大学、北海道教育大学札幌校、酪農学園大学にて非常勤講師を務める。
三膳 時子 氏（認定 NPO 法人霧多布湿原トラスト理事長） 1957 年北海道浜中町生まれ。1987 年、現 NPO 法人の前身である霧多布湿原ファンクラブの事務を、家業である昆布漁と子育てを両立させながら手伝う。2000 年、現 NPO 法人設立時に理事長に就任し、現在に至る。
遠藤 友祐 氏（北海道標茶高等学校教諭） 北海道標茶高等学校環境コースにて、生徒たちを対象としたインタープリターズキャンプを実施している。現在、全国高校生自然環境サミットを担当。
長岡 滋雄 氏（霧多布湿原自然学校代表） 1969 年北海道生まれ。13 歳から日本野鳥の会の探鳥会リーダーなどを務める。霧多布湿原センターのレンジャーを経て、2003 年に霧多布湿原自然学校を設立。現職のほか、道立厚岸少年自然の家スタッフ、北海道認定アウトドアガイド（自然）、ひがし北海道環境学校プランナーを務める。Project WILD 上級指導者。
河原 淳 氏（霧多布湿原センター館長） 三重県生まれ。現在、浜中町在住。酪農学園大学大学院修士課程修了。高校教諭を経て、環境調査業務に従事。哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類調査を担当する。1999 年からケンボッキ島の調査、霧多布湿原いきものリスト作成、緑の回廊事業などに従事。2006 年から霧多布湿原センター勤務。トウキョウトガリネズミの生態研究を続けながら、ガイド、環境教育、環境保全活動を行っている。現職のほか、酪農学園大学非常勤講師を務める。
藤田 郁男 氏（環境学習フォーラム北海道代表） 1934 年北海道生まれ。道立高校理科教諭を経て、道立理科教育センター研究室長、道立高校校長を務める。その後、フィリピン大学にて JICA 専門家として環境教育に従事し、帰国後、北海道教育大学、酪農学園大学、北海学園大学などにて非常勤講師を務める。現職のほか、NPO 法人北海道環境カウンセラー協会顧問、環境省環境カウンセラー（市民部門）、北海道環境保全協議会委員、札幌市環境審議委員など。